

●今年2回目(2月15日 10:00)の地域説明会 29人の参加者がありました。

今年京田辺市の水取と一休ヶ丘の地区公民館の2カ所で地域説明会を行ってきました。今回の取組では、初めて回覧板を回していただき周知を行っていただきました。里山の会の地域説明会では画期的な出来事でした。ご来場案内をお知らせいただく事が大きな目的ですが、「自然を大切に作る仲間の輪を大きくする」スローガンを掲げて地域の自然を観察調査している団体の紹介をいただいたことは画期的な出来事でした。これまで長年地道に活動を継続してきた活動を評価いただいたことは大変な激励と受け止めています。寒い中多くの方々に展示物をご覧になってくださってありがとうございました。



回覧

自然を大切にする仲間の輪を大きくする

(発足以来掲げてきた活動スローガン)

京田辺は自然の宝の山

一休ヶ丘の皆さんへ 里山の会からの呼びかけ

一休ヶ丘公民館で地域説明会を開催いたします。ご参加ください。NPO やましろ里山の会は結成以来30年を迎える事が出来ました。木津川の生育植物は917種を確認し、中聖牛や竹蛇籠を取組みました。普賢寺では里山農園を拠点に動植物の観察調査と野菜栽培や自然観察の調査、炭焼など、地域の皆さんのご協力とご理解をいただいで活動を続けられて来ました。大変感謝しています。

このたび私たちの得られた**成果の発表展示会**を開催させていただきますので、公私ご多忙のところでしょうか一足ご足労をいただければと、ご案内をさせていただきました。

2026年2月15日(日)10時から15時

- 展示物
- キンラン キンラン ムヨウラン ササユリ シャジクモ
 - ウバユリ ミドリシジミ タマムシ ルリタテハ アサギマダラ
 - オオムラサキ クワガタムシ カブトムシ ルリタテハ
 - ヤマトサンショウウオ イノシシ アライグマ
- 活動紹介ポスター

中学校生の観察記録発表予定

普賢寺等での実績

- 尾根筋ハイキングコース 国蝶オオムラサキの発見
- 京田辺の最高峰 千鈿山 311m ヤマトサンショウウオの発見
- 白土山周遊歩道 木津川の生育植物・917種
- 木津川でイタセンバラ(天然記念物)の復活を取組中
- 木津川で中聖牛や竹蛇籠で魚の棲み処づくり5群16基の設置
- 打田で木炭(炭焼き作業)の技術向上の取り組み



主催 NPO やましろ里山の会 結成30年を迎えました

事務所 京田辺市田辺深田 15

0774-64-4183 fddb257@yahoo.co.jp

この取り組みの連絡先

一休ヶ丘在住(水取出身) 大村幸正さんへお願いします 080-1454-8139



●木津川クリーン作戦（2月15日 9:30～）

この日まで堤防の清掃するところまでの洪水の回数が少なく、その上この場所(山城大橋東詰め)での工事が行われていて集まった9人が目を皿のようにしてゴミを見つけ出すのに苦労しなければならぬのが現状でした。毎年ご協力いただいている城陽市役所職員さんや木津川市から来ていただいた方などおなじみのみなさんが集まっていただきました。今回は一番ゴミが少なかったと責任者の森島さんの感想でした。

●竹エンピツの袋(サック)デザイン制作に苦心

ヒントから製作を始めた頃、京都府から注文が着て大喜びをしながら苦労して手作りで納品をしました。その後小さなイベントに参加させていただいての販売を繰り返し、売り上げも目的の1つでしたが製作していることの宣伝のために精一杯出かけてきました。そこでの要望や改善点についてお聞きし、教えてもらって3年目を迎えています。製品は4種類となりました。最初から最大の課題であった8mmの角に割る製作機が手工業的にハンマーを使用したもので大量に生産できないので苦労を重ねています。先日環境省の大阪事務所からの3月末納入期日の思わぬ注文が入りました。うれしいことです。直接お話をしていませんのに人づてに第三者を通じての事でした。また福祉施設の作業所から製造現場を見学したいと3施設から申し入れがありました。徐々に人づてに広がってきていると実感し始めたところです。最近苦労したのは作品を見栄え良くしようと紙袋のデザインの工夫に苦労いたしました。自前の印刷機での増刷ですので原稿をPCで作り上げることの操作が難しく大変でした。苦労しながら少しずつ前に進められればと考えています。どなたでも事務所でのお手伝いにお越しく下さい。お待ちしております。

●河川協力団体のアンケートが来る

近畿地方には河川協力団体が25登録されています。私たち里山の会もその一員として活動を続けてきました。木津川希少種生育調査管理業務は主に土木業務を中心業務としてきていたので植物、特に希少植物分野は苦手なので調査観察と保全管理分野についての業務を行ってきていました。昨年(2024年度)には協力団体の情報交換会の場がありました。良い機会でしたので次年度も開催をと強く発言しておきましたところ、2025年度はアンケート調査用紙が送付されてきましたので、木竹の粉碎機の購入費の実現を要望していると返答をしておきましたら、竹蛇籠についての問い直しで協力関係のある大学名とありました。春の「親子花見乗船体験」や「イタセンパラの復元を目指す」では摂南大学、「竹蛇籠製作」では京都大学、「木津川希少植物」では同志社大学のサッカー部有志の協力を得て活動を継続していますとの返答をいたしました。

●国交省の木津川堤防の除草作業経費で2026年度予算の減少が切実な流れに

2026年度の将棋頭型水制工=竹蛇籠の設置は木津川出張所への申し入れでは予算はないとの説明でしたのであきらめかけていましたがご理解いただき実現できました。ところが同じ草刈り業者には年間2回の作業の内、刈草の運び出し作業を中止の方向や除草作業も一部、年1回とする方向が提案されてきているらしいと耳にいたしました。国交省のこの予算額は例年通りですが、人件費や物価などの経費が高くなってきているので例年並みの予算は執行できなくなっているのが現状で、先ほど耳にした話もありかと思いました。厳しい現実の現場のお話でした。

●炭焼き原木の切り出しと運び出しが進む 2026年2月10日 原木の切り出し2日目

過日の大木3本の伐採では一窯分に少々不足するので2回目の切りだし3本を行ってみました。これまでに幾度も伐採の必要性が話し合われておりましたが困難と危険性、そして運び出す困難と同時に高齢化と体力の後退などで手が付けられなく放置されたままになっていました。うまく切り倒す事が出来れば絶好の条件でしたので大村、森島、太田、金田さんなどが意を決して行ってくださいました。かなり太くて重たくてこのままではとても木炭の原料には使用できません。炭窯に入れるのに最適な大きさは直径14cmで長さ110cmといわれていますので、まだまだ手を加えなければなりません。このまま放置するのではなく炭窯場に運び出さなくてはなりません。体力の衰えが目立つ高齢者には大変厳しい重作業でしたが皆さんが奮い立って綺麗に運び出していただきました。山の仕事は葉が枯葉となって落ちた頃の冬が最盛期ですので、寒さに負けず力仕事に精を出して頑張って、綺麗にさせていただきました。有難うございました。炭窯の着火予定は3月14日午前としています。窯出しは一週間後になります。ご参加ください。



●3月20日には里山の会も出店参加いたします。

松かさツリー作りや竹エンピツ作りです。京都南部で活動されているサークルの皆さんが出展されます。



関西ケリ研究会
かたつむりミュージアム ラセン館
日本野鳥の会京都支部
プレコ暮らし
自然環境保全協会奈良
NPO法人環境カウンセラーズ京都 環境保全/整備/う
一般社団法人 宇治きこりの会
城陽環境パートナーシップ会議
八幡市
京都自然教室(クラフト部) 自然を楽しむ木もれ日散
エコパートナーシップうじたわら
京都自然教室ネイチャーガイド
木津川市・鹿背山の森
特定非営利活動法人 やましり山の会
NPO自然観察指導員京都連絡会
西山自然保護ネットワーク
かみきり(ゲンジ屋)



●京田辺市でもこのような催しが計画されています。

篠原さんから出展参加のお話がありました。人手が十分ですが取り組みのチラシやイベント紹介・展物で参加できればと考えています。

結成30周年記念事業 里山展 3月3日～8日

私たち里山の会は、自らが持っている自然への興味を深め理解できることを願っていますし、そこで得られた資料を自分一人を満足させるだけでなく、会員の皆様にお伝えするために年間二回発行の会誌を通じて広くお伝えしてまいりました。しかしそれだけでは市民府民の多くの方々に普及するには足りないと気付きました(自然を大切に仲間を大きくするとのスローガンの実現のため)地域への出前の発表会を取り組んでまいりました。山城地域で本津川沿川の自治体は11町村を数えていたので4年間で二順を行ってまいりました。事前の広報の不足などから効果ははっきり得られず展示を気にして自らの活動のまとめや振り返りが出来る機会としての役割を果たしてこれたと思います。今年も30周年の節目でもありますので展示内容の公表発表を 力点を置いて取り組みたいと思います。



主催 特定非営利活動法人 やましろ里山の会 事務局 京都府京田辺市田辺深田 15 fddb257@yahoo.co.jp
 自然を大切に仲間を大きくする

●里山の会では3月7日(土) 13:00~15:30 京田辺市中央公民館で講演会を開催いたします。いずれも無料ですので気楽ご参加ください。

第30回 里山環境講演会

一級河川は国交省の管理下であって一本1草を持ち出しても持ち込んでもならないというのが方針とされてきました。
 里山の会の観察・調査の結果 917種の植物が生息していることを確認し、82カ所にレッドデータブックで指摘された植物の存在が明らかになり草刈り時期の調整がされました。一方川砂の採取が進み河床低下などで、魚種や魚量が減少し水質の悪化と共に改善されたといっても子供供に魚と魚とりの面白さが得られる川でなくなりました。そのために河川敷きの洪水で流れてきた流石を利用した伝統的河川土木である竹蛇籠の利用を国交省木津川出張所に働きかけて中聖牛や得根頭型水制工を2015年から15km地点を中心に製作設置を行ってまいりました。この活動は京都大学防災研究所の指導で取り組み、住民(里山の会等)が力を合わせ、管・学・民の共同で川普請(住民による川作り)としてが実行されてまいりました。この取り組みを提唱し現場で指導されてきたのが竹門康弘准教授です。取り組んで約10年が経過し全国的に認識が広がっているの四万十川や岡山県で実験が始まっています。今回の講演会では経過と成果をお話しいただき木津川が全国的に果たす役割などを語り合えればと考えています。
 現在天然記念物に指定されて日本で3か所(福井県・岐阜県・大阪府)にしか生息していないイタセンパラの復元を山城地方の木津川で実現できなかとささやかに10年取り組んでまいりました。出来ればご協力をいただければ幸いです。

3月7日

京田辺市中央公民館 講師 竹門康弘

現 大阪府公立大学客員研究員 理学博士
 川の恵みを生かす会 代表

木津川を身近な川に

参加費無料 参加申し込み 住所 氏名 電話番号を fddb257@yahoo.co.jp まで 200 席
 主催 特定非営利活動法人 やましろ里山の会 京田辺市田辺深田 15
 後援 京都府 国交省 環境書大阪事務所 京田辺市 京都府教育委員会(申請中)
 京都いきもの多様性センター 京都水族館